

社団法人日本ビリヤード協会平成 23 年度事業報告

1 震災に関して

3 月 11 日発生 of 東北地方太平洋沖地震により、恒例の事業に関し大幅な変更を余儀なくされます。

大会の中止・延期

CS 登録の減少をはじめとする大幅な収入減

チャリティ大会開催奨励および義援金募集の実施

その他震災による事業の変更

全国大会の中止・延期

中止 全日本スリークッション選手権・全日本アマチュアインボール選手権
学校対抗選手権 等

延期 全日本スヌーカー選手権 ジュニアオリンピックカップ 等

義援金制度 シールを作成し全国に配布 3 月 31 日時点で 636,875 円

日本赤十字社に送金、現在も制度継続中

東北支部に見舞金 300,000 円 CS カードの有効期限延長

2 組織

日本協会は、複数の県体協加盟がないと準加盟の手続きがとれません。県協会の皆様にはぜひ県体協加盟申請の手続きをお願いいたします。

県体協加盟には会費の問題があり、県によっては県協会のキャパを超えた会費が発生する可能性があります。また、助成金も出ますが用途限定の場合が多く、しかも助成金ではまかなえない事業をする必要があります（自己負担金が必ず必要）。助成金をいただいたおかげでかえって会計を圧迫する可能性もあります。また、事務処理量も格段に多くなります。NBA には体協加盟助成金がありますのでこれを利用し積極的に体協加盟に取り組んで下さい。

組織（県協会）が機能するには人的資源と経済基盤、その両輪が揃わなければ機能しません。本項目はいわば NBA が体協に加盟し、ビリヤードが国体の正式種目になるための長期計画の一部であり、毎年の計画の筆頭にあげられるべきものです。

9 月の審査会にあわせて書類作成中です。

3 普及事業

ビリヤードによる高齢者の体力・健康づくりということで、テーブル寄贈、講師派遣などを続けて参りました。高齢者に対する普及は地道でしたが、国体誘致に対し非常に効果があり、活動が実を結んだとも言えましょう。高齢者と若年層は今後もビリヤードの普及においての両輪となります。

高齢者への普及

協会のアピールとしては適切な運動量と、頭を使うことによる認知症防止、コミュニケーション等があります。現在増えている高齢者施設では、入居者のニーズに応える姿勢をとっており、その中にビリヤードも入っているようでいくつかの問い合わせもありました。講師派遣依頼がくればできるだけ協力をお願いします。公共の高齢者施設には全撞工の協力でテーブル貸与・贈呈を続けてゆきます。

若年層への普及

児童館などからオファーが来れば極力受けるようにして下さい。

いずれも、一度二度はボランティアでも、度重なるようでしたら本部にご相談ください。多少の補助はできますが、基本は支部としてもやらなければならない事業です。協会所有のミニテーブルは、引っ越し便で送ることができますので、各地のイベントで使うことは可能です。

ミニテーブル1台購入。港区赤坂中高生プラザに設置。

旧テーブルを富山県協会に寄贈。脚を補修し現在使用中。

10月10日、日体協・文科省・JOC・レク協等共催のスポーツ祭2011に参加。

ミニテーブル支部貸し出し 東北1回、東京2回

東京都との折衝で東京国体及び記念大会にシニア・障害者の部を設けることに決定。

昨年度に実施予定だったが震災のため延期を余儀なくされたスヌーカー普及のためのイベントを開催。タイより3名の選手を招聘。対抗戦・チャレンジマッチを企画し、普及と日タイ親善にも大きな効果があった。(東京倶楽部助成事業)

学校対抗

日本一を決める競技会ですが、学生層の充実を図る目的もあります。補助金を支給してくれる学校も出始め、又優勝旗を学生課で1年間保管していただけた年もありました。学校側が名誉と思ってくれているわけで、大きな前進です。良い大会を続けてゆくことは更なる前進につながります。

しかしこの2~3年の各地区の状況を伺いますと、予選参加チームが減少傾向にあるようです。震災で中止となりましたが、第11回大会は大幅に定員割れの20校出場という寂しいものとなりました。学生のビリヤード離れに歯止めをかけなければなりません。

普及事業も、ビリヤード協会が永久に続けてゆかなければならない事業です。

20 校出場。各地での（特に関東）での予選参加チームの激減。

4 選手強化

国際大会の活躍のみならず、長期的にアマチュア、ジュニア層などの選手強化事業を確立させなければなりません。そして選手強化の延長としてワールドゲームズやインドア・東アジア大会の代表選考を取り入れてゆくことができれば、選手選考に関する大きな参考となるでしょう。

5 ジュニア

ここ数年日本のジュニアクラスは層・レベルと共にかかなり充実していましたが、その充実したメンバーが徐々にジュニアを卒業し、世代交代を迎えています。このクラスは常に新メンバーが登場していないといけないのですが、全国的に選手層が薄くなっているのが現状です。タレント発掘も協会の重要な仕事であり、また、ジュニアの充実はそのまま普及にもつながります。またジュニア・学生層への普及は体協加盟や地区教育委員会とのつながりが有効な手段であり、組織の発展ともつながりをもってきます。

ジュニアオリンピックカップは延期となりましたが、7月には開催します。また、ジュニアの大会で JADA のアウトリーチングを予定しています。

ジュニアオリンピックカップを7月愛知県で開催。14名参加。ここでも関東の出場者の激減。男子上位2名と女子1名を世界選手権（ポーランド）に派遣。
キャロムジュニア選手を世界選手権（グアテマラ）に派遣。

6 国体記念大会・スポレク

岐阜国体記念大会もスポレクエコとちぎ協賛事業も本年度開催します。国体は東京、長崎は準備が進んでおり、現在和歌山の準備を進めています。

スポレクは今回の栃木大会をもって終了。
国体 2013 東京、2014 長崎、2015 和歌山、2016 岩手まで決定。
ただし東京以外の記念大会は大きな既設会場がないため、特設開催予定。資金の確保が成功の大きな比率を占めることとなる。

7 大会開催・・・トーナメントスケジュールによる。

8 大会派遣・・・例年通り世界選手権に代表を派遣。

9 法人制度の変更について

すでに半ばを迎えている法人制度の変更期間ですが、NBAは公益社団法人として申請することになります。現状にあわせた定款変更もしなければなりません。今年度も情報収集と準備、可能ならば申請を予定しています。

定款と各種規程の作成。平成25年4月1日設立予定で準備中。

10 各種委員会

アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属するJPBAとJPBF、そしてNBA本部で構成した委員会で活動しています。今年度は3大会で8検体の検査を予定していましたが、震災による中止で2大会6検体となります。

全日本スリークッション選手権と全日本レディーススリークッション選手権で2検体ずつ採取。全員陰性。

新法人移行委員会

駆け込み申請にならないように進めてゆきます。

CS委員会

実際に回転しているシステムにつき、急激に大きく変更することは不可能です。と例年守りの体制でしたが、1997年開始、そして現システムの開始が2001年で、ちょうど10年間経ちました。現在登録倍増を目指し大幅変更の新システムを企画中です。試合に必要なカードではなく、価値を付加したビリヤードファン必携のカードを目指しています。

付加価値についての検討中。

助成金審査委員会・選手選考委員会

必要に応じ開催します。

必要がなかったため本年度開催せず。

協力金委員会

長い間の懸案であった協力金(旧オリンピック基金の発展系)システムが完成しました。
今後本委員会で請求および集金業務、そして助成審査を担当します。

12月で協力金の会計年度終了と共に決算報告。収支すべてホームページで公開。

ルールを常に明示することを目的とする競技委員会を設立。現在ルールは頻繁に変化しているが全国的に混乱しないよう努める。